



リレーエッセイ

ハードルを越えて

おづか あいみ
尾塚 愛実さん
(阿久根市)

29

2016年7月、アメリカで行われたデフバレーボール（聴覚障害者のバレーボール）の世界選手権に日本代表として出場しました。幼い頃から運動をすることが大好きで、小学3年生からバレーボールを始めました。小・中・高校と九州大会に出場し、中学では鹿児島県選抜として全国大会にも出場しました。

高校は地元の鶴翔高校へ進学して大好きなバレーボールを続けました。高校生バレーボールの夢である「春高バレー出場」を目標に、3年間きつい練習をして沢山の遠征や大会へ出場しました。残念ながら目標にしていた春高出場の夢を叶えることは出来ず、ほんとうに悔しかったです。でも、振り返ると、私にとってはとても素晴らしい、何にも代えることのできない貴重な経験をすることが出来ました。今まで応援してくれた家族、指導者、素晴らしい仲間、友人に出逢えたお陰だと思っています。

高校を卒業後は京セラ（鹿児島川内工場）に入社しました。入社後すぐの7月、デフバレーボールの世界選手権（アメリカ）へ日本代表として出場しました。初めての海外での試合でとても緊張しましたが、持っている力を出し切ることが出来ました。目標の世界には届かず、世界4位で終わってしまいましたが、ベストスコア賞（個人賞）を頂くことが出来てとても嬉しかったです。

今年は7月にデフリンピック（聴覚障害者のオリンピック）がトルコで開催予定です。現在は仕事をしながら、東京と神戸で月に1回ずつ行われる日本代表候補の強化合宿へ通っています。同時に、母校や地元の社会人バレーの練習に参加し、自主トレーニングに励んでいます。

社会人生活は、慣れない環境の中でたくさんの不安がありますが、上司や先輩方に色々なサポートや丁寧なアドバイスを頂き、とても助かっています。ハンデを持っていても出来ることは沢山あると思うので“どんなことにも、諦めずチャレンジすれば夢は叶う”ということを仕事やバレーボールを通して皆に伝えていきたいと思っています。

そして素晴らしい環境で仕事が出来ること、たくさんの方々に応援して頂いている今に感謝し、これからも色々なことに挑戦して頑張っていきたいと思っています。



世界選手権でスパイクを放つ尾塚さん。継続して日本代表に呼ばれることが目標



最高到達点297cmというジャンプ力を活かし、大会の最多得点賞を受賞（左から2人目）

